

ビオトープだより第25号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。



1. クールアースいばらき 2022 大会報告 関東地区委員長・主席 BA 砂押 一成

2022年8月25日、クールアースいばらき 2022 大会が行われました。

この大会は、毎年2月に開催される※「脱炭素チャレンジカップ 2023」の茨城県代表を決める予選会を兼ねており、2014年に始まってから今年で9年目を迎える大会です。

前渡小学校の「学校観察園 ほたるの森」も、日本ビオトープ協会の第14回ビオトープ顕彰にて学校ビオトープ大賞をいただいたことをきっかけにエントリーさせていただき、事務局選考によりファイナリストの4団体に選ばれました。

本来は、より直接的な脱炭素の活動が評価される大会ですが、子供たちに向けた環境教育や脱炭素への興味を抱かせる点が特に評価されました。

具体的には

- 将来を担う子供たちへの活動である
- 自然環境への興味や 脱炭素への意識を高める役割を担う
- 20年以上継続している
- 地元根付いた活動を通して、自然と子どもの両方を育む活動である



開票の結果、ひたちなか市立前渡小学校と他1団体が大会で初めてとなる同点での最優秀賞受賞となりました。この結果に会場は盛り上がりを見せ、茨城県代表として、2団体が2/16に東京にて行われる脱炭素チャレンジカップ2023に出場することが決まりました。

予選は当社（株式会社砂押園芸）の発表でしたが、本選は子供たちによる発表となります。ネット配信もあるようですのでご興味があるかたはぜひご覧ください。前渡小学校の子供たちもピオトープ事例の代表としてがんばってくれることでしょう。

【茨城県大会 決勝進出4団体】

1. 「ジオラフター株式会社」

二酸化炭素排出削減を加速するための 新技術、土壌汚染対策技術の社会実装

2. 「Peach Other 茨城」

「環境フェスティバル那珂 2022 開催 報告」

3. 「リビング館ホンダ」

ソーラーシェアリングを用いた脱炭素コーヒー栽培の実現 **最優秀賞→本選へ**

4. 「ひたちなか市立前渡小学校」

「学校観察園 ほたるの森について」 **最優秀賞→本選へ**

※「脱炭素チャレンジカップ」は学校・団体・企業・自治体などの多様な主体が展開している脱炭素を目的とした地球温暖化防止に関する地域活動について、書類審査、プレゼンテーション審査を行い、優れた取組を表彰している全国大会です。

The poster contains the following information:

- Event Title:** 13th 脱炭素チャレンジカップ 2023
- Date:** 2023年 2月16日(木)
- Venue:** 伊藤謝恩ホール (茨城県茨城県東郷町3-3-4 茨城大学キャンパス内)
- Program Schedule:**
 - 10:00 ~ 10:12 開会式・オープニング
 - 10:12 ~ 10:21 ファイナリスト25団体によるプレゼンテーション
 - 10:21 ~ 10:30 休憩
 - 10:30 ~ 10:40 講演: 東京大学 東条トシヨシ 教授 基村 伸 さん
 - 10:40 ~ 10:45 「アイディア賞」受賞者からの講演
 - 10:45 ~ 10:55 最優秀賞発表から開演
 - 10:55 ~ 11:15 「ベストアイデア賞」授賞式
 - 11:15 ~ 11:55 表彰式(最優秀賞発表)・閉会式
- Participation Method:**
 - 1. 脱炭素チャレンジカップホームページから申し込み
 - 2. 申し込み完了後、メールから申し込み確認
 - 3. 脱炭素チャレンジカップ事務局から申し込み確認メールが届く
- Web Broadcast:** 脱炭素チャレンジカップ事務局のYouTubeチャンネルにて同時開催
- Participating Organizations:** A list of various companies and organizations including NISSAN, FUJIFILM, and others.

チャレンジカップ概要



開催日時 2022年10月6日(木)・7日(金)・8日(土)
10:00~17:00

会場 愛知国際展示場 (Aichi Sky Expo)

参加者数 16,511人
(来場者: 13,633人 オンライン視聴者: 2,878人)

出展者数 企業: 43社 NPO等: 22団体 学校・大学: 29団体
自治体等: 26団体 合計 120団体



会場入口モニュメント



愛知県大村知事 開会挨拶



会場内の様子



SDGs アクションステージでの発表状況



日本ビオトープ協会 出展ブース

通常、このようなイベントは同一業界内で行われることが多いですが、今回は建設・造園業のみならず、飲食業、製造業、行政団体、教育施設など幅広い業界の企業・団体からの出展があり、他業種のSDGsへの取組、またアプローチの仕方を知ることができたのは良い経験になりました。また、昨今世間で話題となっているSDGsというテーマを大々的に取り上げている事で、来場者の殆どがSDGsに対して興味を抱き取り組んでいる、もしくは学ぼうとしている人が多数を占めており、こちらの説明に対しても、高い関心を持って聞いて頂ける方が多く、実りの感じるイベントでした。

《ピオトープとは直接関係はありませんが、輸入資材などの価格上昇原因についてです》

海外へ出かけると、近年お土産品やレストランなど、値段を見て おや・・・!と思う事が多い様に思っていました。コロナ前ですが、スイスチューリッヒ空港内で昼食に回転ずしを食べて、いざ支払いの段階で日本の回転ずしの二倍以上の請求にびっくり、空港内だからかと思っていましたが、OECDの各国賃金を見て納得しました。

以前より、日本の平均賃金が上がっていないと言われてはいますが、OECDのデータで、改めて、日本は貧しくなっていると思い知らされます。国内では、日本は素晴らしい、技術は世界一だとか自画自賛の報道が結構多く、データで、見る機会はありません。表の右側の円数字は、最近の円安レートで単純に円換算してみました。

.....

2020年の年間平均賃金（OECD）を見てみました。（1,000ドル以下四捨五入）
 および、最近の円レート 140円/ドルで試算した数字です。

①	アメリカ	694,000ドル	9,716,000円
②	アイスランド	675,000	9,450,000
③	ルクセンブルグ	659,000	9,226,000
④	スイス	648,000	9,072,000
⑤	デンマーク	588,000	8,232,000
⑥	オランダ	588,000	8,232,000
⑦	ノルウエー	558,000	7,812,000
⑧	カナダ	553,000	7,742,000
⑨	オーストラリア	552,000	7,728,000
⑩	ベルギー	543,000	7,602,000
	（各国平均）	（492,000）	（6,888,000）
⑱	韓国	420,000	5,880,000
⑳	日本	382,000 (@110/ドル)	4,202,000
		323,000 (@130/ドル)	

いつの間にか韓国にも追い越されています。

1990年～2020年の各国賃金伸び率では、韓国の伸びが際立っています。

日本は、この30年間に僅か7%しか伸びていません。

東南アジアなどからの出稼ぎは、急激に魅力を失っています。

アメリカ 148%

韓国 194%

日本 107%

各国平均 133%

.....